

修士論文（要旨）

2015年1月

映像作品を用いた日本語授業の研究
—メディア・リテラシーを取り入れた実践授業からの考察—

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
213J3015
馬珊

Master's Thesis (Abstract)
January 2015

Media Literacy in Japanese Classes: Teaching Practices Using Visual Media

Shan Ma

213J3015

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J.F.Oberlin University

Thesis Supervisor: Yuko Miyazoe-Wong

目次

第1章 はじめに	1
1.1 研究背景	1
1.2 研究目的	3
第2章 先行研究	4
2.1 メディア・リテラシー教育	4
2.1.1 メディア・リテラシーの基本概念	4
2.1.2 学びの場の作り方	5
2.2 映像を用いた実践研究	6
2.3 メディア・リテラシーを取り入れた実践研究	6
第3章 予備調査	8
3.1 調査概要	8
3.2 調査結果	9
3.2.1 学習者による映像作品の利用	9
3.2.2 映像授業への評価・期待	11
3.3 実践授業への示唆	13
3.3.1 本研究の必要性の再確認	13
3.3.2 映像作品に対する学習者の温度差への対応	13
3.3.3 映像の選択への示唆	14
3.3.4 字幕の利用への示唆	14
第4章 実践授業（本調査）	15
4.1 協力者	15
4.2 授業の目標	15
4.3 使用した映像作品	15
4.4 授業内容と手順	17
4.5 使用するデータ	18
第5章 対話の分析	20
5.1 学習者による映像作品の分析	20
5.1.1 感想交換活動の対話（データ D1）	20
5.1.2 指定課題活動の対話（データ D2）	22
5.2 対話における課題	31
5.2.1 誤用に関する課題	32
5.2.2 対話促進に関する課題（データ A1・A2・A3）	32
第6章 実践後調査	37
6.1 調査概要	37
6.1.1 質問紙調査	37
6.1.2 インタビュー調査	37
6.2 調査結果	38
6.2.1 実践授業への評価	38
6.2.2 教師にしてほしいこと	44
第7章 総合的考察	46
7.1 協力者の学び	46
7.1.1 メディア・リテラシーの学び	46
7.1.2 協働的学び	46
7.1.3 言語的学び	47
7.2 教師に求められること	47
7.2.1 言語学習への対処	47
7.2.2 ファシリテーターとしての役割	48
第8章 まとめと今後の課題	51
8.1 本研究で明らかになったこと	51
8.2 今後の課題	51

参考文献
資料

近年、日本の大衆文化が、マス・メディアやインターネットを通じて世界中に配信され、海外において高い人気を博している。中国では、映像作品が学習者の間で高い人気を呼ぶと同時に、教育リソースとしての効果も教育機関により期待されている。それは、映像作品は日本の様子を多角的、具体的かつ総合的に示せると言う特徴（石田 2008）を持っているからである。しかし、このメリットの反面、映像作品視聴にはステレオタイプ的な見方を拡大再生産し、日本語学習および異文化理解に支障をきたすというデメリットも潜んでいる。学習者は、日本社会に対する理解不足や映像作品を批判的に読み解く能力の欠如により、映像作品から情報を読み取る際にステレオタイプのような認知の仕方を取りがちである。これを避けるためには、ステレオタイプに対する批判の目を養うメディア・リテラシー（Media Literacy, 以下 ML）の方法論を視野に入れ（牲川 2000）、映像作品そのものを批判的に読み解き活用する力が必要だと考えられる。

そこで本研究では、映像作品を用いて、中国国内の日本語専攻の学習者を対象とし、MLを取り入れた実践授業を実施した。本研究の目的は、実践授業の実施によって得たデータを分析し、以下の2点について明らかにすることである。

【RQ1】 MLを取り入れた実践授業において、学習者はどのような学びを得たのか。

【RQ2】 MLの育成を目指した授業において、教師はどのような役割を果たすべきか。

実践の対象となった学習者は中国 A 大学に在籍する日本語専攻大学院生 11 名である。ドラマ『半沢直樹（第 1 話）』とアニメ映画『千と千尋の神隠し』を用いて、90 分の授業を 2 回ずつ、合計 4 回行い、主に以下の 2 種類の活動を実施した。

1) 感想交換活動 学習者は視聴後の感想について意見交換し、仲間との対話を通して、内容理解の不足部分や間違った部分を補足・修正することを目指す。

2) 指定課題活動 稿者が用意した ML の基本概念を取り入れた「課題」について仲間と話し合うことで、映像作品を多角的かつ批判的に読み解き、思考力・洞察力を深めることを目指す。

両活動のいずれも原則として日本語で行い、対話内容は学習者の許可を得てグループごとに録音・文字化した。また、全ての実践授業が終了した後、実践後調査として、学習者全員への質問紙調査と、うち 6 名を対象としたインタビュー調査を行った。

学習者の学びと課題を分析するため、以下 2 つの方法でデータの分析を行った。まず、実践授業中の対話を観察し、学習者による映像作品の分析を鈴木（2013 他）が挙げている ML の 8 つの基本概念を念頭に解析し、そこで起きている学びと課題を考察した。次に、実践後調査のデータを基に、本実践に対し、学習者はどのように評価したのか、また、教師に何を求めているのかを探った。

対話分析の結果、学習者は指定課題活動での仲間との対話を通して、制作側の意図を推測したり、作品をめぐる現実と虚構について議論したり、作品に含まれた様々なものの見方に自分なりの意味づけをしたりしながら、映像作品を批判的に分析し、ML の学びを実現していることが明らかになった。また、学習者には、「対等」な立場にいる仲間との自然な対話プロセスの中で、相手からの指摘を受けることにより、より深い理解が促され、新たな気づきが生まれ、協働的学びが得られた。さらに、映像作品の視聴によるインプットの言語学習や対話によるアウトプットの言語学習も実現できた。一方、「誤用への介入」「問いかけの仕方」「適切な対話参加」が授業の課題として浮かび上がった。

教師に求められることとして、ファシリテーターとしての技術を磨き、(1) 学習者の興味・関心への対応 (2) 問いかけづくり (3) 適度な対話参加 (4) 理論・実践ともに重視する授業設計 (5) 教室内と教室外の連携といった課題に取り組むことが必要であることが示された。

本研究では、映像作品を用いた授業に ML を取り入れることによって、学習者が得られた学びや教師に求められることの一部を明らかにすることができた。しかし、ML の学びに関しては、課題について対話することで、その向上が図れるのかどうかについて、まだ不明な点が多く、さらなる分析が必要である。また、教師がメディアへの感受性と ML を保つにはどうしたらよいかを検討することも必要である。

参考文献

- 青木保 (2001) 『異文化理解』 岩波書店
- 池田玲子・館岡洋子 (2007) 『ピア・ラーニング入門 : 創造的な学びのデザインのために』
ひつじ書房
- 石田敏子著 (2008) 「第 18 章 視聴覚教材の利用」 『日本語教授法 改訂新版』 大修館書店
- 石塚美枝・宮副ウォン裕子・守谷智美 (2012) 「メディア・リテラシー育成をも座した『現代大衆文化』の授業実践—メディア社会に生きる市民としての学習者の学び—」 『2012 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 55-66
- 門倉正美 (2005) 「メディア・リテラシーの世界」 細川英雄編 『ことばと文化を結ぶ日本語教育』 第 10 章 凡人社 154-171
- 門脇薫 (2013) 「映像作品を利用した異文化理解のための日本語教育」 『日本学刊』 (16)
4-22
- 窪田守弘 (2007) 「映画で日本文化を学ぶ人のために」 世界思想社
- 近藤有美 (2010) 「メディア・リテラシー育成を目指した日本語授業 : Youtube 映像を利用して」 『長崎外大論叢』 (14) 51-60
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法 : 原理・方法・実践』 新曜社
- 清水美帆 (2014) 「中国 A 大学における映像メディアを用いた日本語「視聴説」授業の研究—映画をリソースとした対話重視の授業実践から—」 2013 年度桜美林大学修士論文
- 徐燕 (2011) 「映像作品の教材化に向けて」 『東アジア日本語教育・日本文化研究』 (14)
335-354
- 鈴木みどり (1998) 「特集 : メディア・リテラシー メディア・リテラシーとはなにか」
『情報の科学と技術』 48(7) 388-395
- (2003) 『Study Guide メディア・リテラシージェンダー編』 リベルタ出版
- (2013) 『最新 Study Guide メディア・リテラシー 入門編 最新版』 リベルタ出版
- 牲川波都季 (2000) 「剥ぎ取りからはじまる「日本事情」」 『21 世紀の「日本事情」——
日本語教育から文化リテラシーへ』 (2) 28-39
- 館岡洋子 (2004) 「対話的協働学習の可能性 ピア・リーディングの実践からの検討」 『東
海大学紀要・留学生教育センター』 (24) 37-46
- 谷口美穂 (2011) 「日本語教育における学習リソースとしての視聴覚メディア—インタ
ビューからみえた学習者と教師の視点のずれ—」 2010 年度桜美林大学修士論文
- 西村寿子 (2001) 「参加と対話で学ぶメディア・リテラシー—生涯学習講座から—」 鈴木
みどり編 『メディア・リテラシーの現在と未来』 世界思想社 174-192
- 保坂敏子・土井真実 (2001) 「映像素材を使用した学習活動に対する学習者から見たビリー
フ—教室場面の学習活動の場合—」 『小出記念日本語教育研究会論文集』 (9) 25-39
- 保坂敏子・Gehertz 三隅友子・門脇薫 (2012) 「映像作品を利用した日本語教育の体系化に
向けて : 海外における利用実態と教師の意識から」 『徳島大学国際センター紀要・年
報』 47-59
- 李建華・宮崎恒平 (2013) 「視聴覚授業の新たな形態の模索—日中のテレビ番組を用いた
メディア・リテラシー向上の試み—」 『福井工業大学研究紀要』 501-508